

興禪大燈国師遺戒・

汝等諸人此の山中に来つて道の為に頭を聚む。

衣食の為にする事なかれ、

肩有つて着ずと云ふ事なく、口有つて食はずと云ふこと無し。

只須らく十二時中無理會の處に向つて、

究め来り究め去るべし、

光陰箭の如し、謹んで雑用心すること莫れ、

看取せよ看取せよ。

老僧行脚の後或は寺門繁興佛閣經卷、金銀を鏤め、

多衆開熱或は誦經諷呪長座不臥一食卯齋六時行道、

直饒恁麼にし去ると雖も、

佛祖不傳の妙道を以て、胸間に掛在せずんば忽ち因果を撥無し、

眞風地に墜つ、皆是れ邪魔の種族なり。

老僧世を去る事久しくとも兒孫と称する事を許さじ。

或は一人有り野外に綿絶し、

一把茅底折脚鐺内に野菜根を煮て喫して日を過すとも

專一に己事を究明する底は、老僧と日々相見報恩底の人なり、

誰か敢て軽忽せんや。

勉旃。勉旃。